

製品安全データシート

作成日 2000年4月10日
改定日 2012年2月21日
(第8版)

1.製品および会社情報

製品名 : ヘビーウォッシュP
製品コード : 1461

会社名 : 株式会社コスモビューティー
住所 : 大阪市此花区島屋4丁目3番43号
担当部門 : 研究部
担当者 : 矢野 貴史
電話番号 : (06) 6460-3120
FAX番号 : (06) 6460-0052
推奨用途及び
使用上の制限 : 作業着専用洗剤 (綿・麻・合成繊維用)
整理番号 : 1461-08G01

2.危険有害性の要約

重要危険有害性および影響 : 重篤な眼の損傷―眼に入ると重度の障害を及ぼすおそれ

GHS分類

健康に対する有害性 : 急性毒性 (経口) 区分4
: 急性毒性 (経皮) 区分4
: 急性毒性 (吸入・蒸気) 区分4
: 皮膚腐食性/刺激性 区分1
: 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分1
: 呼吸器感作性
: 皮膚感作性
: 生殖細胞変異原性
: 発がん性
: 生殖毒性 区分2
: 特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露) 区分2
: 特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露) 区分3
: 吸引性呼吸器有害性 区分2

環境に対する有害性 : 水生環境有害性 (急性) 区分2
: 水生環境有害性 (慢性)

※ 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報	: 飲み込むと有害 吸入すると有害 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い 臓器<神経系>の障害のおそれ 眠気やめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ 長期にわたる、または反復暴露により臓器<心血管系>の障害のおそれ 水生生物に毒性
注意書き 〔安全対策〕	: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取り扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 指定された個人用保護具を使用すること。 環境への放出を避けること。
〔応急措置〕	: 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚 (または髪) に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に連絡すること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。 暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
〔保管〕	: 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
〔廃棄〕	: 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3.組成および成分情報

単一化学物質・混合物の区別: 混合物

組成および含有量

化学名または一般名	含有量 (%)	PRTR法 ⁽¹⁾	化審法 ⁽²⁾	安衛法 ⁽³⁾	CAS番号
ポリ(オキシエチレン) = ノニルフェニルエーテル	10	第1種410	(7)-172	—	9016-45-9
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸	4.0	第1種30	(3)-1907	—	27176-87-0
炭酸塩	非公開	—	非公開	—	非公開
ケイ酸塩	10 - 15	—	非公開	—	非公開
リン酸塩	非公開	—	非公開	—	非公開
再付着防止剤	非公開	—	非公開	—	非公開
蛍光増白剤	非公開	—	非公開	—	非公開

(1) 化学物質排出把握管理促進法 官報公示整理番号 (平成21年10月1日改正)

(2) 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 官報公示整理番号

(3) 労働安全衛生法 第57条の2 施行令第18条の2別表第9 (名称等を通知すべき危険物及び有害物) 政令番号

—: 該当しない

4.応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- 眼に入った場合 : 眼を擦らず直ちに清浄な水で15分以上眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受けること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗浄を続けること。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまでよく洗浄すること。
この製品が眼に入った場合、一刻も早く洗浄を始め、入った製品を完全に洗い流す必要がある。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中をよくすすぎ、無理に吐かせないでコップ1-2杯の水または牛乳を飲ませるなどの処置をすること。気分が悪いときは医師の診断を受けること。
-

5.火災時の措置

- 消火剤 : この製品自体は、燃焼しない。
-

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
作業の際には保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護マスク）を着用し、粉末が皮膚に付着したり、吸入しないようにする。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
- 除去方法 : 少量の場合は、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。
回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
-

7.取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 取扱いは換気のよい場所で行うこと。
屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業すること。
取扱いの都度、容器を密封すること。
眼、皮膚、衣類に付けないこと。
保護手袋及び保護眼鏡を着用すること。
取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする事。
容器を転倒、落下させ、衝撃を与え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
- 局所排気・全体換気 : 取扱う場合は、屋外または全体換気の設備のある場所で取扱う。

- 注意事項 : みだりに粉塵が発生しないように取扱う。
- 安全取扱い注意事項 : アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。

保管

- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気のよい場所で容器を密封し保管すること。
施錠して保管すること。
吸湿性があるので湿気を避け、涼しい場所で密封して保管すること。
酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。
- 安全な容器包装材料 : 開封した容器で再び保管する時は、密封をよく確かめること。
他の容器に移し替えて保管しないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度
日本産業衛生学会 : 設定されていない
ACGIH : 設定されていない
- 保護具
呼吸器の保護具 : 防塵マスクを使用する。
手の保護具 : 保護手袋を使用する。
眼の保護具 : 保護眼鏡 (側板付き又はゴーグル型) を使用する。
皮膚及び身体の保護具 : 保護衣を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 : 白色粉末
- 臭い : 原料臭
- pH (1%水溶液) : 10以上
- 融点・凝固点 : 該当しない
- 沸点、初留点と沸騰範囲 : 該当しない
- 引火点 : 引火性なし
- 自然発火温度 : データなし
- 燃焼性 : データなし
- 燃焼又は
爆発範囲 下限、上限 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 蒸気密度 : データなし
- 蒸発速度 : データなし
- 比重 (25℃) : データなし
- 溶解性 : 水に溶解する。
- オクタノール／水分配係数 : データなし
- 分解温度 : データなし

10.安定性及び反応性

安定性	: 通常の条件では安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: 現在のところ有用な情報なし。
混触危険物質	: ハロゲン類、強酸類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物	: 現在のところ有用な情報なし。

11.有害性情報

急性毒性	: ○経口急性毒性 [炭酸ナトリウム] ・ラットのLD50 = 2,800 mg/kg, および4,090 mg/kg (SIDS (access on July 2008)) はいずれもJISの分類基準の区分外に該当する(国連GHSでは区分5に該当)。 [ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム] ・ラットを用いた経口投与試験のLD50 438 mg/kg (RTECS (2006)), 500 mg/kg, 2,000 mg/kg(IUCILID(2000)) に基づき、計算式を適用して得られた 438 mg/kg から、区分4とした。 [メタケイ酸ナトリウム] ・ラットのLD50値 (1750(雄), 1152-1349(雄雌), 800, 600 mg/kg bw (SIDS (access on 12 2008), 1280mg/kg (PATTY (5th, 2001)) に基づき、区分 4とした。 ※上記3成分の結果から、急性毒性推定値を算出し [区分4] とした。 ○粉塵吸入急性毒性 (mg/ℓ) [炭酸ナトリウム] ・ラットLC50 (4時間換算) 1.2 mg/L (SIDS (access on July 2008)) より区分4とした。 ※上記の結果から、急性毒性推定値を算出し [区分4] とした。
皮膚腐食性/刺激性	: ケイ酸塩は [区分1] に分類され、これを10%以上含有することから [区分1] とした。
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 炭酸塩およびケイ酸塩は [区分1] に分類されており、これらの合計含有率が3%以上であるため、[区分1] とした。
呼吸器感作性	: 情報なし
又は皮膚感作性	
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテルは [区分2] に分類されており、この含有率が3%以上であるため [区分2] とした。
特定標的臓器／全身毒性 －単回曝露	: ケイ酸塩は [区分2] (神経系) に分類されており、これを10%以上含有することから [区分2] (神経系) とした。また、炭酸塩は [区分3] (気道刺激性、麻酔作用) に分類されており、これを20%以上含有することから、[区分3] (気道刺激性、麻酔作用) とした。
特定標的臓器／全身毒性 －反復曝露	: ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテルは [区分2] (心血管系) に分類されており、これを10%以上含有することから [区分2] (心血管系) とした。
吸引性呼吸器有害性	: 情報なし

12.環境影響情報

生態毒性	: ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテルは水性環境有害性(急性) [区分1] に分類されているが、[区分1] のカットオフ値(25%) 未満のため、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸の水性環境有害性(急性) [区分2] と合わせて「(M※×10×[区分1]) + [区分2] ⇒ [区分2]」により水性環境有害性(急性) [区分2] とした。※M=毒性乗率
残留性／分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壌中の蓄積性	: 情報なし

13.廃棄上の注意

内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

14.輸送上の注意

国際規制

- 国連分類 : 国連勧告の定義上の危険物に該当しない。
国連番号 : 該当しない

国内規制

- 陸上輸送 : 消防法・労働安全衛生法・毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれ定められた輸送方法に従う。
海上輸送 : 船舶安全法に定められた輸送方法に従う。
航空輸送 : 航空法に定められた輸送方法に従う。

輸送の特定の 安全対策及び条件

- : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
直射日光・高温多湿を避ける。

- 緊急時応急措置指針番号 : 該当しない
-

15.適用法令

- 化学物質排出把握管理促進法 : 第1種指定化学物質 政令番号 第30号 [直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)] 4.0%
(平成21年10月1日改正)
第1種指定化学物質 政令番号 第410号 [ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル] 10%

労働安全衛生法

- 危険物 : 非該当
有機溶剤中毒予防規則 : 非該当
表示対象物質 : 非該当
第57条の2第1項 通知対象物 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
消防法 : 非該当
-

16.その他の情報

参考文献

原料メーカーMSDS

独立行政法人 製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム」データベース (CHRIP)

中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター「GHS対応モデルMSDS」

記載内容の取扱い

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータの評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。また、記載内容は新しい知見などにより予告なく改訂することがあります。

- 記載内容の問合せ先 : 株式会社コスモビューティー 研究部
電話番号 (06) 6460-3120
FAX番号 (06) 6460-0052
-